

2024 年 4 月 30 日作成 Ver.1.0

《情報公開文書》

肝硬変患者における Vitamin D 値と健康関連 QOL との関連についての検討

研究の概要

【背景】肝硬変は、多様な原因により肝臓に線維化が生じる慢性疾患であり、患者さんの生活の質（QOL）に大きな影響を及ぼします。特に、栄養状態の不良は肝硬変患者さんの予後と密接に関連しており、中でもビタミン D の欠乏は肝疾患患者さんにおいて一般的であり、骨代謝異常、筋力低下、免疫機能の低下など多方面にわたる健康問題を引き起こす可能性があります。ビタミン D は、カルシウムの吸収を助けるだけでなく、筋肉の機能維持や炎症反応の調節にも重要な役割を果たします。近年の研究では、ビタミン D 欠乏が肝硬変患者さんの筋肉量減少（サルコペニア）や身体機能の低下と関連していることが示されています。しかし、これらが具体的に QOL にどのような影響を与えるかについては十分に解明されていません。

【目的】本研究は、肝硬変患者さんにおけるビタミン D 欠乏症の実態を明らかにし、その欠乏が健康関連 QOL に与える影響を評価することを目的とします。

【意義】この研究により、ビタミン D 補充療法が患者さんの QOL 向上に有効である可能性が示されれば、肝硬変の管理における新たな介入戦略の提案につながることを期待されます。

【方法】当院入院となった肝硬変患者さんを対象とします。Vitamin D の指標である血中 25-OH-D 測定検査および QOL 指標としてアテネ不眠尺度および筋痙攣の有無を確認する問診が行われています。今回、後方視的研究として、対象患者さんにおける Vitamin D 値と HRQOL に関する情報を収集し、Vitamin D 欠乏症と HRQOL の関連について検討します。

対象となる患者さん

- ① 2020 年 1 月 1 日～2023 年 3 月 31 日の間に長崎大学病院消化器内科にて肝硬変と診断された入院患者さん
- ② 入院時に血中 25-OH-D 測定、アテネ不眠尺度、筋痙攣に関する問診が行われた患者さん
- ③ 対象期間中に年齢が 18 歳以上の患者さん

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・患者さん背景：性別，年齢，Child-Pugh score
- ・血液学的検査：白血球数，赤血球数，血小板数，プロトロンビン時間
- ・血液生化学検査：AST，ALT，総ビリルビン，アルブミン，25-OH-D
- ・アテネ不眠尺度
- ・筋痙攣問診：過去 1 週間以内における安静時筋痙攣の有無について確認します。

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2024 年 5 月 16 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2026 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 消化器内科 氏名：原口 雅史 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7481
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先**【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】**

長崎大学病院 消化器内科 原口 雅史

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095 (819) 7481 FAX 095 (819) 7482

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）